





山田意齋叟參考  
前北齋卅老人繡像

山田意齋

釋尊御代記圖會

全部

六冊

書林

東都 稻田玉山堂  
浪華 岡田群玉堂

釋尊

世尊一代國會序

光哉世尊出世難哉苦行

深哉佛法不知何故權實

頓漸之法兼以度一世

夫知愚者異其性無二經

未及古堂

釋尊



門 13  
號 4037  
卷 1

云不生不滅不增不減故  
曰至道無難讀世書者見  
野亭北齋為何物徒多愚  
衲紹介何益之有  
天保十年冬十一月

紫野黃梅院前大德

大德四百卅五世大禪撰





地風

悉達太子之后妃  
耶偷陀羅女像



空

大恩教主  
釋迦牟尼如來法像







火

斛飯王之太子  
提婆達多之像



水

淨飯大王之后  
騎曇彌夫人之像



釋迦如來御一代圖會總目錄

卷之壹

師子頰王禪寶位太子

百國王朝迦毘羅城圖

淨飯王治世築山臺

善覺臣二女入内

摩耶夫人懷妊

摩耶夫人感靈夢圖

憍曇彌夫人現蛇身圖

憍曇彌嫉妬招摩耶

儀伯無間呪詛摩耶夫人

摩耶夫人奇病并夢中說法

卷之貳

著閣診脉摩耶勸墮胎藥

老翁相摩耶說胎内皇子高德

相者們討論摩耶夫人容體圖

摩耶夫人夢裡聽千因說

藍毘尼園催花宴

悉達太子降誕現天地瑞異 同圖

摩耶夫人逝去

悉達太子入學阿私陀仙示三十二相

悉達太子与提婆擁藝



悉達太子與諸童子擗射術圖

提婆太子擊大象圖

淨居佛一試悉達太子

提婆太子擊大象圖

淨居佛二試悉達太子

悉達太子娶耶愉陀羅女

悉達太子與達婆太子鬪馬術圖

卷之三

淨居佛三試悉達太子

淨居佛化比丘試太子圖

諸童子為太子語諸國地理圖

悉達太子暗知檀特法基

悉達太子出宮中赴檀特山

耶愉陀羅女子太子悲歎留別圖

悉達太子赴檀特山圖

悉達太子託遺物車匿

迦毘羅城騷動車匿獻遺物

悉達太子於檀特山師阿羅々仙 同圖

悉達太子於般若臺師伽羅々仙

天女靈鬼告因位善惡應報

耶愉陀羅女生若宮

悉達太子苦行雪山降魔軍

悉達太子得四句偈正覺成道

靈鬼授悉達太子四句偈圖



三迦葉師釋尊  
釋尊宿迦葉石室圖  
三迦葉飯伏釋尊圖

卷之四

舍利弗目蓮歸釋尊法門  
聽世尊法助出罪囚獄中圖  
安陸說舍利弗佛偈圖  
世尊謁淨飯王若宮認如來  
世尊赴夕陽山圖  
阿難迦難優婆離耶愉陀羅女得道  
世尊於忉利天謁二世母君  
提婆寇世尊并卒都婆功德

世尊大神通懲魔軍圖  
提婆勸謀叛斛飯王  
世尊使難陀羅睺羅見三冥途  
世尊示二太子三冥途圖 其二  
世尊昇殿賜勅衣  
離婆多依無失罪囚獄中  
離婆多遭呵責圖  
難陀王即位并淨飯王崩御  
靈鷲山三迦葉大闢魔軍  
三迦葉与魔軍闘神通圖  
魔種欲妨佛法却窘

卷之五



提波多蟲惡諸國太子

欲冠世尊提婆墜活地獄

同圖

目蓮干活地獄救提婆圖

須達宿月蓋舍拜世尊

須達長者買祇陀園

滿地布黃金須達買祇陀園圖

搦神通舍利弗降六道師

舍利弗現大神通挫道師圖

卷之六

祇園精舍造之昆首謁摩手彫木佛

天童扶謁摩令造木佛圖

世尊說木佛功德

大愛道比丘尼泥頂

流離王屠殺伊沙衣那國人民

流離王慶伊沙衣那國人民圖

流離王雷死天火燒宮殿

雷神罰流離王王臣圖

釋尊御一代說法大略

舍衛國人民屠大魚圖

釋尊遺言并涅槃

如來滅後現五妙神力

總目錄畢





釋迦御一代圖會卷之壹

目錄

- 師子頰王禪寶位太子
- 百國王朝迦毘羅城圖
- 淨飯王治世築西基
- 善覺臣二女入內
- 摩耶夫人懷妊
- 摩耶夫人感靈夢圖
- 憍曇彌夫人現蛇身圖
- 憍曇彌嫉妬招摩耶



儀伯無間呪摩耶夫人  
 摩耶夫人奇病并夢中說法



釋迦御一代圖會卷之壹

師子頰王禪室位太子

浪華好菴堂野亭考選

曾聞大恩教主釋迦牟尼世尊一代の經論ハ神妙寂通甚深微妙ふり。千  
 餘萬端不可説不可思議の蘊奧豈庸愚の窺能る處か。人ヤ和漢歷代ハ  
 知識碩德萬億の書卷ハ涉獵ハ句を推章を考テ譯解撰釋する書  
 千々の倉票ハ棟充萬々の牛馬ハ汗けり。猶其分限を盡て更能る。幼  
 王老ハ至るまじ。晝夜を捨て是を閱とも何ぞ其極ハ到る更を得る況こづ  
 一帝上ハ如来の功德ハ萬一を述べたる更能る。魚帝婦女童蒙ハ為小其  
 大略を緝人ハ初初の天地ハ不用闡陰陽の氣凝結ハ三千大千世界ハ中  
 小天竺月氏國ハ緝其國五方ハ分て東天竺西天竺中天竺南天竺北天竺是也  
 其中天竺の裡ハ摩耶陀國ハ帝を懿摩王ト号シ轉輪聖王の位を踐  
 四天下ハ威を震ひひり子孫連綿ハ續嗣ハ三十六代ハ及ぶ大王を師子頰王

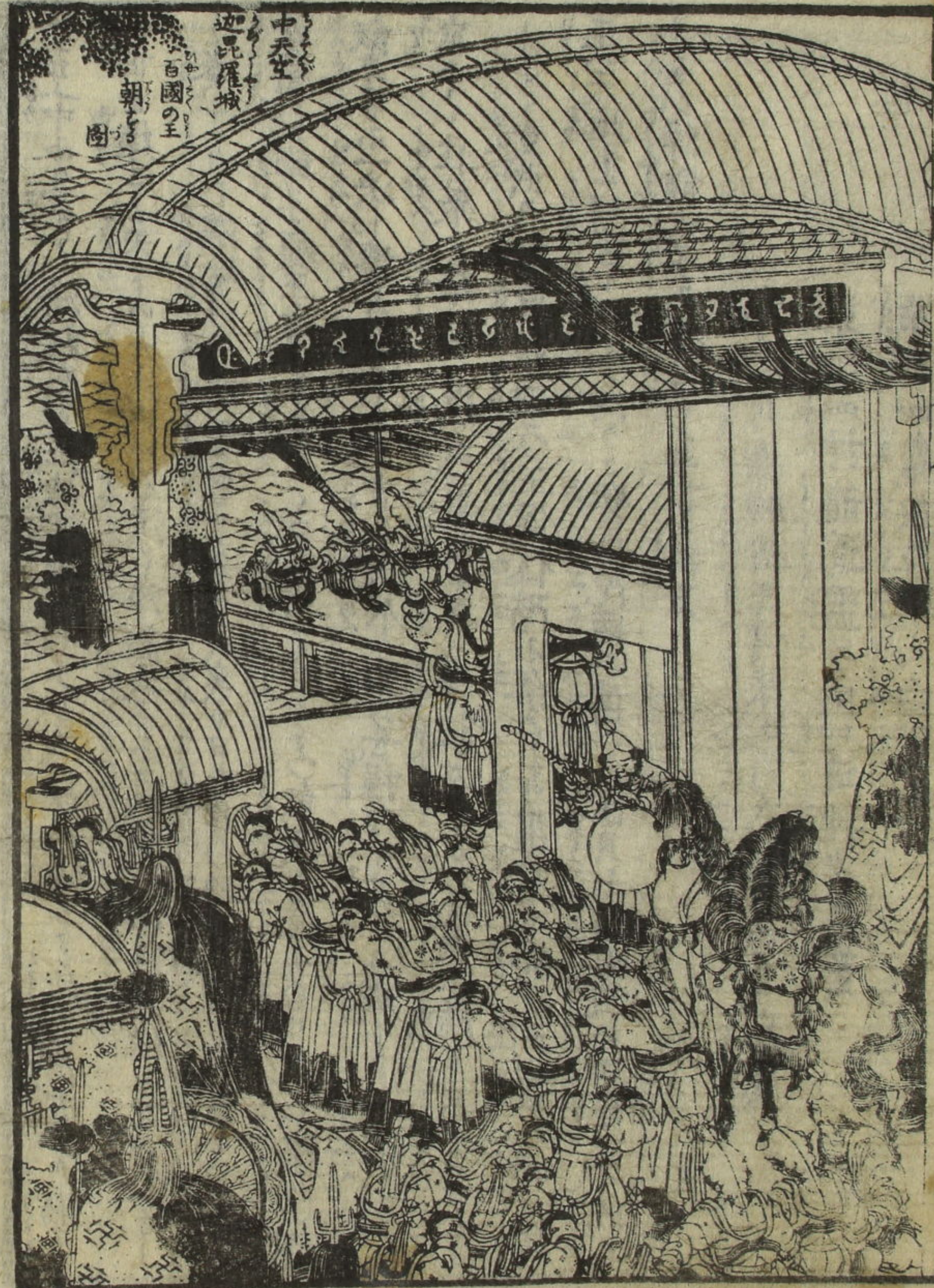
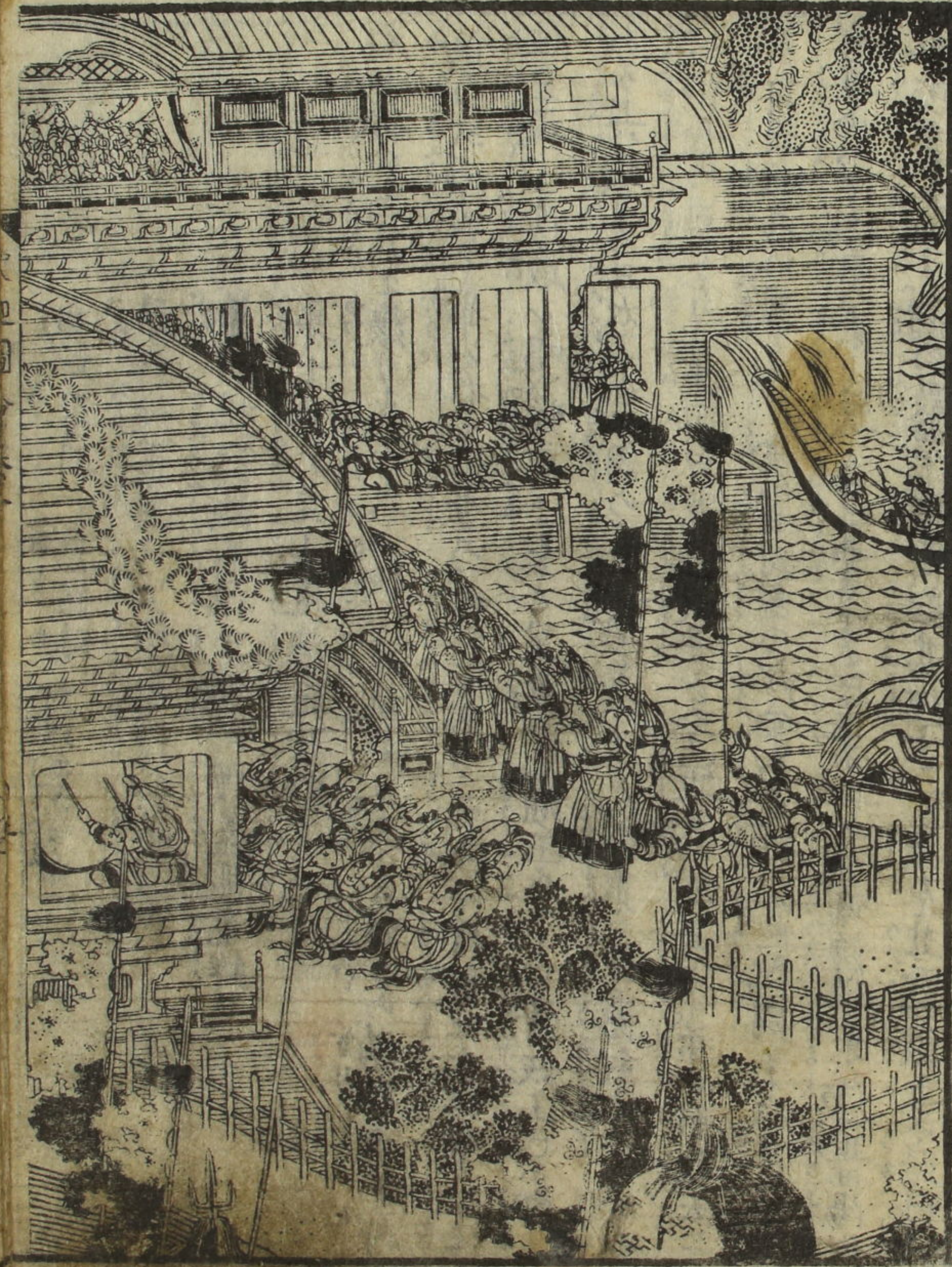


と称する此王の四人の皇子在せり。第六淨飯太子、御弟第六甘露飯太子、又有り。河難の  
第三白露飯太子、又有り。第四斛飯太子、又有り。此四人乃皇子皆賢智、小勝、多の  
煩王、聖徳明、萬民を撫育あり。八荒従ひ靡た五風十雨時を違ふと  
萬方安寧なり。然、小師子煩王年、已小圃むひ、一日文武の百官を朝廷へ  
召し、煩王紹て曰、朕祖宗乃、讓を受て國政を聽て五十年。卿等國忠を屬  
政を補佐し、四天下昌平、逆乱の瀾起ど、故、朕官中、安卧、無比の  
娛樂を極る、更を得、然、已小傾、起居、心、任、朝政を、  
失忘、所、多、恐、萬機の政を、過つ、更、因、王位を、太子、  
朕、山居、静、老を、親、思、卿、然、高、議、四人の太子の、  
乃、位を、踐、量を見、定、帝位、即、宣、命、ある、群、臣、紹、命を、奉、  
あつと、畏、り、領、掌、三公の、弟、日光、臣、階、を、進、奏、  
い、も、芽、出、る、睿、慮、小、臣、愚、案、を、回、小、四人の、皇子、何、も、  
聰明、睿、知、小、

世の中、今、淨飯太子、仁徳、天地、不、則、り、人、望、の、飯、所、古、より、嫡、子  
小、世を、讓、天下の、大法、須、淨飯太子、小、萬、衆の、宮、位を、讓、  
と、奏、滿、廷、乃、月、卿、雲、客、口を、を、実、中、日光、臣、乃、啓、奏、理、の、當、然、  
奏、聞、し、師、子、煩、王、睿、慮、嚴、日、光、臣、告、能、朕、が、意、小、合、り、  
飯、太子、小、決、一、博士、小、命、古、日、良、辰、を、卜、程、を、其、日、小、成、  
室、小、莊、嚴、讓、位、乃、儀、式、嚴、重、小、具、淨飯太子、を、高、座、小、  
と、文武、乃、百、官、緒、國、乃、王、侯、位、階、小、依、奇、羅、星、乃、如、  
王、天、地、を、拜、御、手、摩、伽、陀、國、小、傳、る、室、貝、七、密、七、流、の、  
淨飯太子、小、授、其、品、

- 第一 月藏轉倫王傳來之月氏國景普在室壘
- 第二 四神龍道靈云同四通神力靈箭
- 第三 四魔能莫惱之白蓮劍





中天堂  
迎昆羅城  
百國之王  
朝  
圖

彩邊圖會卷一



第四 闡明如意宝珠 所謂夜光珠也

第五 從蓬萊仙宮所獻轉輪王王冠

第六 拂汚滅不淨王幡同縵蓋飛龍鉞

第七 五天竺山道海道陸野道地圖

右七種の宝具を讓り玉へ。太子敬で頂戴あり。夫より種々の儀則あり。即位乃式滞なく畢れ。満堂乃公卿百國の王。各淨飯王を拜賀して。宝位を祝。萬歳を唱。悦勇まどと。父者々。頗王重。曰淨飯王已即位。ある六。残りの三太子の。小國の王。小封を。先弟二甘露飯太子と。位官伯長の司とな。弟三白露飯太子を。聖道文武の司と。弟四斛飯太子を。白道無為の司とな。弟五且封國の。紹命ある。抑六伽陀國より。四方の國と。四道ふ分てり。東。東。道と。号其末。四道ふ分てり。南海道。東陽道。西陽。北陽道。是なり。國の數。四十五箇國。其裡十五ヶ國を。甘露飯王。小賜。以。旗

耶羅國を。任國と。定らる。南。南陽道。其末。三道ふ分てり。善陽道。白陽道。黃陽道。國の數。三十五ヶ國。其裡。善陽道。五ヶ國を。白飯王。小賜。以。尸羅摩國。を。任國と。定らる。西。西徑道。其末。二道ふ分てり。伯奇道。北陰道。國の數。二十三ヶ國。其裡。伯奇道。三ヶ國を。斛飯王。小賜。以。伊婆耶國。を。任國と。定らる。諸北。北陸道。其末。二十四道ふ分てり。南。延。北。易。微。子。と。く。山海。郊。野。幾。千里。と。り。涯。を。走。る。是。を。五。郡。七。穢。十。蘭。七。戸。三。滴。一。島。と。呼。な。せ。り。其。且。且。且。且。三太子。中。任。爵。封。國。有。を。れ。る。帝。恩。を。厚。く。謝。し。悦。び。更。斜。な。り。頗。王。中。睿。慮。穩。小。く。眞。宴。を。用。た。賑。へ。玉。を。緒。人。大。り。小。悞。樂。を。究。り。醉。を。盡。し。後。退。散。さ。り。り。是。より。頗。王。六。仙。洞。小。秘。住。し。以。静。ふ。老。を。報。ひ。て。終。小。室。算。八。旬。小。く。登。霞。有。多。る。八。尊。子。を。尊。御。事。たり。り。

淨飯王治世築四基

淨飯王六萬乘の宝位を受。轉輪王の位を踐。天皇。地皇。醫。醫。療。明。道。の。政。



事掌小納りしを群臣を朝廷に集て詔命ありては朕若年不徳乃身を以て天位を踐て慙愧不堪と云ふ又大王の嚴命已更を得て密祿を辱せり卿們軍に朕が不敏を補ふ一点の過失を練せ正し政道邪曲なく奢を省れ儉を守り萬民を安んずる安んずる國豊み民榮道廣く四竟昌平かろハ朕が願所なり人々を眞實を以て又と慈愍を以て母と敬を以て兄と信を以て弟とを以て如是なれば國中皆父母萬人皆兄弟なり人の悪を忍び是を練せ入る善を忍び俱小従ひ行せ萬人二人の師かり一人を萬人の師かり卿們此旨を時々民間末々まで觸知しやと宣ひされ三公九卿も亦月卿雲客同喜あつと感し實難有倫言々かろ各王命の趣を諸道の民へ觸渡され萬民感涙を流し王の徳を称せざるハ亦一淨飯王は如是の仁君小朝暮の政事正しく一日も忘りかされ三光明小照し土肥國豊み五穀年毎小登世乃安靜なる吏たかり万民鼓

腹々楽々唱ひ這王の聖齡千歳を保せむと願ひたる然れ三公の人月光臣淨飯王が奏し曰大王乃仁徳海内小普く國土年々小肥百穀能豊熟し猶國家の般昌を思ひ都城の裡小地を擇み四角所の靈臺が築た春夏秋冬其折々小あつと大王自己臺小登り玉ひ民の耕作行旅乃往返を覽し勤る賞急るを属し玉ひ下民怠慢かり業を勤め四天下愈靜謐小治り玉ひ奏し淨飯王御悦喜限り是は朕が意小合り急死地を擇み臺を築し倫言ある小月光臣領掌し自己地理を考へ百座を聚へ四座の高臺を管造むる小百姓是を安んず大い怡ハ大王治國の爲小靈臺を築し報恩乃爲一車乃玉一碓の石をも運よと我れくと寄聚者或萬人の敷をあらと刀屬く築く程小不日や四座乃靈臺成就せし月光臣悦小勝む宮殿小金銀珠玉と鏤水日明の簾錦繡乃帳心釣も及ぬ近磨之其旨淨飯大王が奏し帝歡喜斜かり



諸臣下を従へて靈臺へ幸臨あり。文道乃博士を召筆道の堪録を擇む。曲  
座乃臺の名を額面題させしむ博士們深く助考し。先東の臺を青龍城と  
号し春の眺望小備南の臺ハ波梨舎耶城と号し夏の景色を臨み西月京城  
と号し秋望の臺と北並那離城と号し冬の景色を望む其臺と見上  
り浄飯王四季折々小頃の靈臺小御幸あつて農耕乃艱苦行旅  
の疲勞を睿覽し以愈朝政を正仁澤を施す夫附て睿慮を  
慰む六春遠山乃霞融々々々微風萬花香散送り御衣の紋由是乃為小  
白を加夏ハ玉階雲小栊々蟬声雅樂を奏薰風龍鉢乃汗をくみ秋ハ皓月  
錦帳を照し瑟瑟たる涼風梧桐を拂々天津星由王前小朝と号し疑れ冬々々  
四郊乃雪雲端小晴暉日乃三白將小翌年乃豐饒を奏し冬々々似く四季折々乃  
眺望限なく面白れを萬機乃御政務の余暇ある毎小諸臣と俱小靈其至小御  
宴を促さく君臣樂をともしむ或時日光臣冠を傾け奏し冬々々ハ大王

受禪せしめて廣く民小徳沢を施す。王化至ぬ限もいりむ萬民業を樂み君  
を思ふ赤子の父母を慕ふ如く茲も御代の悠久かき人妻を夏ハ樂の中  
小薄氷を踏の怕絶を夫天あれを地あり。昼あれを夜あり春夏漸々ふり秋  
冬沈遅く草木の花咲葉結ハ皆造化の功小不窮の道なり。君今富曲  
天下を保ち貴く轉輪王れを御望と可き事更さるれば只國小  
所ハ后妃乃まかり宜く才色勝る夫人を擇む官妃小備御代を嗣せれば太子  
を儲むと奏しれ満座乃諸卿大ハ感歎し実よくもやされ者小維ハ此旨  
成存せざるを大い大臣乃奏聞こそ萬代不易の針策何更上此の仰願ハ  
官妃を迎せむ臣下及び萬民乃心を安んずるを異口同音小奏し冬々々  
大王借睿聞あり。群卿乃奏する所其理ありと以も朕又正乃位を受継て  
未ハ裁許由あらず然小早く后妃を迎む恐く色小甚乃簪を唱れ乱國  
乃端成由曳出さんと辞ふを日光臣亦練て曰陰陽和合天地の定理男女



夫婦八人同大倫なり大王御年若く在るとも后妃を迎へて何れ憚りた  
と釣を盡し練奏し多ふと浄飯王のさの争ひ玉ひ此六卿が勸ふ  
頃を宣め日光臣ら緒大臣歡喜踊躍御世長久の基河斐此  
上のいざれと御宴に用た舞樂を奏して衆萬歳を誦多時小月光大臣  
進み出て曰右より善道早く行ひ惡道早く退けと縋り維つてあま  
后妃小備を程乃才色全た婦人あり早く啓奏有いと告ぐれ烈位に  
と同意し我れくと冠を傾け后妃小具を佳人を志わらる書紀三大臣小  
呈と其數凡一千五百余人とせばえらる

善覚臣二女入内

斯く群臣退出し緒臣下が執達とる所乃美婦人を悉く召寄王の睿覽  
小具多ふ其中小好容夫人芙蓉夫人と衆女の中小の特勝一佳人を擇  
出し小好容夫人ハ波梨舍耶城小住し芙蓉夫人と並耶離城小住し

御と申いま浄飯王の睿慮小稱ひむさうふやとて龍顔悪く見え玉を  
然小或官人奏して曰緒大臣一千五百人の官妃を擇ぶ献と久しむいふ絶世  
乃佳人をたらと臣史西徑道の内仙乘國乃守官善覚大臣小二人の女あり  
姉を嬌曇彌と呼妹を摩耶と号しとも無雙の美人あり眉翠羽の如  
く面白玉小似る素雪の看奴小て揚押り腰和やふ是小増こ今と六  
其長高く是成減と二分すれ其長短く嬌然とく一とび笑ひ飛鳥とより  
嬌然とく二とび咲む海鱗浮む然も天のやせの俊才あり歌舞吹弾の  
道ハ心を更なり萬乃技藝小達せるとい妻なり実小天上の菩薩の如  
と傳安ハ大王と后妃を需むくとわれを早く勅使を仙乘國へ遣はて善  
覚臣二人の女を迎むとを勸むり浄飯王渠が鏡とく成安あひて忍  
ち恍惚とく酔るが如く睿慮大に動れ即時小三大臣を召ま急いで善  
覚臣二人の女を召上とらると宣言ある日光月光星光乃三臣紹命と奉り



群臣乃中其奇才を詮議。年々無双の智臣巴津那とりの者を勅使と  
し。仙乗國へ遣り。巴津那王命を奉り。金銀珠玉の聘物と齎  
し。仙乗國小着善覚臣が館舎小到る。此旨疾仙乗國へ告ぐ。倉卒の  
王命何事やと。善覚臣國人小觸り。道路を清浄させ。自己官人を従へ  
て。遠く迎接し。驛亭の餐食。善美を盡し。其後勅使を引く。館舎小清  
敬で。宣言を待。巴津那臣笏を正し。倫言乃旨他乃子細あらしむ。浄飯大  
王萬乘乃宝位小即ち。と。后宮小具を死佳人を得。朝廷の  
緒臣下是を憂ひ。普く四天下を尋る。一千五百有余の佳人を召聚。睿覽小  
備と。大玉乃尊意小補夫人あらしむ。然小貴卿の令愛姉妹と。小  
絶世の風姿あつ。且才藝不秀。睿聞小達し。急死内せむ。と。王  
命なり。勅書并小聘物と。与。善覚臣勅使乃詞を。心中十分小  
歡喜。禮を厚く。勅答。是。倫言乃偏國乃微臣が女大王乃

宣言小預。旨龜乃浮木を得。天目を拜。如。幸福何。是。小過。死  
然。小。恐。小。容。姿。醜。惡。勅。止。卑。賤。小。睿。覽。小。備。不。足。却。龍。眼。を  
汚。ま。の。悼。あ。れ。違。勅。の。料。畏。多。ま。れ。宜。辭。退。の。義。を。回。奏。乃。告。  
る。巴津那推返。嫌。遜。ハ。ま。る。妻。な。れ。姉。妹。乃。女。の。色。園。生。小。涂。紅。葉  
の。如。更。小。世。小。隱。な。れ。睿。慮。由。茲。小。傾。死。王。命。已。下。上。辭。  
と。却。非。礼。乃。疾。々。令。愛。小。勅。命。の。趣。を。傳。入。内。乃。准。備。を。乃。強。小  
勸。め。れ。善。覚。臣。の。を。回。辭。と。恐。あり。承。伏。其。旨。橋。墨。彌。摩。耶  
乃。西。文。傳。萬。妻。准。備。乃。間。小。客。殿。小。於。勅。使。を。百。般。小。餐。食。應。乃。管。侍。乃  
斯。數。日。乃。後。入。内。乃。准。備。調。ひ。多。橋。墨。彌。摩。耶。二。人。の。女。を。十。分。小。班。せ。七  
室。莊。嚴。乃。車。小。乘。數。百。人。乃。侍。女。童。女。小。傳。世。姉。橋。墨。彌。小。馬。將。軍。姉。摩  
耶。小。鳥。將。軍。と。智。勇。具。足。乃。臣。下。を。添。千。騎。乃。軍。馬。小。前。後。を。敬。言。固。を  
黃。道。古。日。を。撰。多。仙。乘。國。を。啓。行。存。大。伽。陀。國。乃。都。加。毘。羅。城。と。と。上。を



勅使巴津那八是亦先至都城(田)善善覺臣王命を領掌一二人乃女  
を献るより奏聞し之を浄飯大王睿慮慶く。巴津那が功勞を賞し以官人を  
城外遠く半二妃の乗車我迎下り兼て新小宮建一宮殿(緒)敬言侍の兵  
率小數日與宴を賜いり疲勞を休し其後尋々の金銀緋帛を以て  
本國へ飯し以ひり。然し二人乃妃を睿覽あるなりとて清浄殿小召昇り  
初く二女を上覽あり小女一は百倍勝り國色あり。三十二相八十種好を兼具  
將小二莖の玉芙蓉集咲さる如く何れを捨つれやを浄飯王十々睿慮  
小緋ハ歡喜し以之を斜かしとて姉妹とも宮中小留めらるなり。宣旨有る  
姉嬌曇彌月小駒月景城小住り妹摩耶花小象り吉龍城住り之  
初一是より浄飯王南北乃其基乃御幸稀小東西乃其基乃之交々御幸有  
愛幸し以之と雙手の玉乃如く月景城小誓與を促し以日破利遮耶城乃  
宮妃女官美次吉龍城小鳳駕を停り夜八並那離城宮女侍官嫉之媚を

街ハ往ハを凝し龍駕を迎ふを浄飯王二人乃后妃の睿慮あり  
緋ハせ亦不就ても父善覺大臣を賞せしむ有るなり。小國乃王封  
仙乘國を賜り之を善覺臣大弟散深く帝恩を謝なり。漢土西洋乃  
珍玉奇珠を以て其餘天下乃宝を集し十車小積飾り自身見守侍  
伽毘羅城より参内し龍顔を拜し封爵の天恩を謝なり。十車の宝を献り  
之ハ浄飯王睿感浅く大與宴を開け妓樂を奏させ重く管侍  
之ハ城小家の面目世乃名譽此上有るなりとて見者聞者羨ぬなり。四  
天下乃人皆花顔女然生人吏を願ひる。

摩耶夫人懐妊

夫天地物を始て秋乃月明朗なりとて浮雲是を覆て曇世春乃花  
爛熳かるとを風雨是を傷り散り月花乃を人問の上  
これて此憂ひを善善覺臣の女嬌曇彌摩耶乃両夫人浄飯王



乃愛幸厚をたむ。皆王として足さるるが願として満るるを何乃不足もあるま  
らうりなふ心ち同袍仇敵乃死を結内三毒乃劍を磨曳とハハハハ  
其温觴を尋るふ姉妃憍曇弥夫人の心ハ今般の勅命小就入内せし船を  
后妃小具り。摩耶夫人ハ父母の許へ返さる下と思れなふ案の外姉妹ハ宮中  
小留られし兼ての思惟齟齬。深く摩耶夫人を恨み深妹姉妹の礼義を  
思ひ及令大王乃宣旨下るとも。固く辞して古卿飯るに左をく我顔  
小姉と君寵を争ふとを思ふに。遮莫我身色我飾り約を巧み  
大王乃睿慮を傾んと。御幸ある毎小媚を凝し情を盡せし。淨飯  
王ハ四王の宮妃乃中めて。特小摩耶夫人乃色香深。郎操正しを愛むに  
音龍城乃臨幸重りな。憍曇彌夫人深く嫉妬の念生。あれ際有  
む妹夫人を絶し退けなと思れ多し薄情なり。抑婦人乃身ハ貴賤とを  
嫉妬の主母念萌を時ハ無明乃闇小迷ハ七百生の某回音昧乃蛇身と生

次稟熾の息を吐三時中無量の苦患を受る。緒天ハ救ひし更能子慎  
ひる久妬り斯く憍曇弥夫人と日小増後小増摩耶夫人を妬む憎む心  
増長せし。都城の裡小住か。音龍城音信を断ち。負小過し  
程小上を学下のか。傳官馬將軍。月景城乃女官婢們。摩耶  
夫人主従を嫉む。憍曇弥夫人より。更を愛み知り。固り孝  
悌乃心深。木性なれ。此頃月景城より音信のたを思煩。鳥將軍。高儀  
し。日小音物を贈り。消息を通り。安否を紡と。一度も回答なれ。ハ  
摩耶夫人を愈心。成り。寝食を安んず。唯快き。と。おハ。然を  
一陽乃春乃朝。緒木花咲鳥雀乃啼。を。心慰む。方ハ。三秋乃秋  
乃夕紅葉照る。月影を。夜。の。媒と。なり。夜の。衣。小。夢  
結。を。歎。れ。ハ。一。夜。淨飯王音龍城小駕を促し。小。摩耶夫人と。小  
酒燕を催。れ。緑竹。妓樂の御。後。翠帳。紅。圍。小。枕。を。階。老









橋臺彌夫人の蛇心  
大蛇とてなる図



摩耶夫人  
霊夢と  
見る図







寛一稍歎息呻吟一かひも心な収く后妃が對ひ朕今奇異の夢を見たり  
然る今卿が顔を見たり平日と異なり真天人の如し不知卿が夢を言ふや  
否やと向ふ是れ依て夫人包てかき夢想の始終を語りて浄飯王大に歡喜  
しかゝ起て夫人を礼拜し朕が見る所の夢も正お斯の如し是緒天朕も太子と授  
めふ疑なきと睿感しよと限り

憍曇弥嫉妬招摩耶

斯く摩耶夫人を其翌日より身の重た事を覺おひれを愈夢想の違ふと感し  
起居飲食を慎みよふと浄飯王の夫人の身小過失ありてて医官小季を夜に  
診脈急ぐと緒の女官妹女小命より舞歌吹彈をせし緒般の技藝をききて且  
父夫人の意を樂し慰みよひより出む昔龍城の男女傳官烏將軍夫婦をよ  
婢女下官ふりて悦と限り太子乃降誕を待て早小兩を乞が如し此事維  
告りて月景城にえられぬと嘖嘖の焰小胸を焦すと憍曇弥夫人大に

珍れ心中焼が如し妬目来り百倍。毒已れ大王乃寵愛妹摩耶お芳き上渠早く  
王の胤を身小宿し太子降誕あるを愈勢ひ妹小奪れ妻女在り無が如く  
人是は吝惜や如何せん。錦帳の内小伺これ憂ひかひも今思ふ絶く傳官  
馬將軍成道し招て曰く八頃日宮中の風流小昔龍城の摩耶と皇子を懐妊  
とく大王の覺りて。百司百官の尊敬重し。其事實事や。渠安々と  
皇子が産か必皇后宮女御乃宣旨を得。上ね鷲乃奉止を。益妻と茂如  
し。朝廷の緒卿ハハ更かり末々の民市余が妻を侮り狂人後指を指れ  
いれ此身の耻辱か。所詮頼かた存命。身小憂吏を人より速小自  
害して黄泉の人とあなれ。大王の俄の患病や死去と奏せし妻宿世の戒  
行拙く非命の死をか。一念の靈鬼となり。摩耶も皇子も女殺し大王も  
の苦悩を見せたり。今乃惡を晴し人努々此言を人小洩すと更勿と。憤怒の泪  
と俱小涸れ。馬將軍惘然。當時黙然して言句も發せど在ら。稍有











かんと御身の更を絶言する者有。此頃其巧と更願れ其人を追を侍りぬ  
くれは身方より度々進せし消息も彼曲者乃妨けなく御許へ届くべくと推  
量りぬ免れも角ゆゆ分妬なく薄情ありと少敷れ其れ風ふきむつて  
君乃貴胤を孕むひし。妻が嬉しき物敷かむ古國乃又母の歡喜推量れ頃  
ゆも忝り悦び祝せむりし思ひも聊方患ゆるづの意かたむ文とて更回進  
せんとも婦人の身へ乃大更と身へ中も。心若れを難産小有り。安をそれと  
乃思煩ひ昼ハ終日飯を甘ふると夜ハ終夜小愛も結むとあり願ひ二度此方東  
り玉へつらつら顔を見胎孕乃さるかゆえまわらへんゆも誠や書はけ  
たれぬ夫人公余りの嬉し涙を流しおの操返しは。ちながら鳥將軍小對ひ姉君の  
消息又母乃文の異なると斯ま。情深く仰越えを忝く不孝なり。久く姉  
君小逢なまればなつりも限り。言だ参内く大玉奉回し勅免をさむ。月  
景城参る乃れ準備せよと仰れぬ鳥將軍承り。仰る更小ゆゆ。御妊娠の御身

を公路上遠く月景城へ赴たむを御慎かれ候へ。憐曇茲夫人乃御患病  
とくもして大更と申程乃更ゆゆ。御快復あを待て此方へ駕を促しむ。その  
遅くまじい唯其旨使女仰回れ御幾駕の義思止まりと練れも敢て  
許容なく否とよ妻胎孕たりと久も心乃を多くし更平日小勝り。然小姉  
君乃命小背れ此方へ請も。姉妹乃礼小違り早く奏回を。月景城参る  
乃れ準備せよと曰ふ。鳥將軍由主命再び背か。遂小領堂。参内夫人乃  
願ひの旨を奏回し。津飯王層聞あり。左も右も夫人乃意小隨。宜言有  
是小依て鳥將軍退中て。之回り。勅許乃旨回報。小夫人斜か。歡喜ひ  
文使乃女官小數多の財帛を賜ひ。先回され。借月景城乃贈物小。撞や  
乃珍宝珠玉を三車小積載其身。芙蓉冠。頂丸繡衣を穿ち。鞋裳を被。彩鳳  
輦小乘。青龍城を出む。傳官鳥將軍馬上下。前驅。數百乃姝女。五  
彩乃車小乘。後從。其余乃輦。路上妓樂を奏。外吏。前後を警言。回し



月景城を臨むごとくせざる。名もあやまる國王乃寵姫摩耶夫人乃行装をまじ  
其花麗なること繪公方なり。是をえんこと遠近の貴賤老若路上亦充滿す。其  
錐乃地をも残まじと野々もまじり。月景城の使女乃回報小依。憍曇弥  
夫人計巧己小成り。大り小恰小城外遠く官人を出し。摩耶夫人乃駕を迎。城  
内。猪小入る。摩耶乃御身の危れ。更石我抱。瀧小臨。水を踏。水を洗。も溜  
命。夫人より命危難を知。む。女官の教導。小隨。玉殿。入。む。憍曇弥。出  
姉妹絶。久。れ。對面。あ。ふ。小。妹。夫人。年。来。か。つ。姉。君。乃。顔。を。か。ん。む。身。を  
平伏。礼。を。な。り。別。後。乃。素。情。衣。迷。嬉。洞。小。れ。む。憍。曇。弥。乃。偽。く。落。泪。  
同胞。ひ。く。北。都。城。召。ま。し。く。起。居。を。俱。小。せ。朝。々。な。れ。む。は。む。更。能。公。と  
折。り。乃。消。息。さ。へ。人。乃。為。小。謀。妨。れ。か。意。慕。心。通。下。今。日。来。む。ひ。く。顔。を。見。る。嬉  
し。き。よ。其。と。ま。じ。り。置。御。身。小。れ。君。乃。御。覺。め。く。貴。爵。を。ま。じ。り。孕。み。あ。ふ  
り。上。人。より。下。萬。民。乃。悦。び。ま。じ。り。古。卿。の。父。母。も。嬉。ま。じ。り。と。推。量。ら。れ。ま。じ。り。

心乃いさ。察。一。玉。疾。雨。中。泰。り。賀。然。由。迷。ま。か。く。思。か。ら。身。乃。芳。頃。乃。為  
小。妨。ら。れ。心。乃。も。黙。止。な。れ。と。度。見。く。胎。妊。乃。す。成。中。同。進。せ。が。れ。心。安。堵。む。と  
平。素。か。ら。ね。御。身。を。芳。々。と。知。か。ら。斯。く。緒。進。せ。な。年。々。萬。我。頓。と。安  
ら。小。白。皇子。を。産。く。見。せ。む。か。ん。巧。言。小。云。く。ら。頃。珠。玉。乃。玉。盤。を。は。ら。ね  
山海乃珍味を饌。酒宴を催。緒般の妓樂を奏。させ。て。官。侍。を。ま。じ。り。傳。官  
烏將軍ハ憍曇弥乃心中其意得。と。始。り。疑。ひ。思。れ。若。鳩。妻。女。を。用。ら。る  
巧。も。と。此。乃。心。を。許。ま。じ。り。礼。讓。を。名。と。酒。食。も。盡。く。先。姉。夫。人。小。勸。後  
我。女。主。小。勸。む。其。誠。忠。至。り。盡。と。以。い。も。如何。せ。入。天。眼。通。を。得。ま。れ。憍。曇。弥。が  
奸。針。酒。肉。乃。上。ふ。あ。を。却。く。傍。か。る。簾。中。小。儀。伯。無。間。乃。二。道。士。有。り。摩。耶。夫  
人。乃。形。見。を。承。彩。と。造。写。し。呪。咀。乃。形。代。と。せ。ん。と。為。を。知。り。々。を。是。眼。に  
儀。伯。無。間。呪。咀。摩。耶。夫。人。  
斯。く。數。射。乃。游。樂。乃。ひ。ま。小。二。個。乃。外。道。ハ。思。俣。小。后。妃。の。容。見。を。遣。と。復。潜。小







大玉 五七九

奇特を顯りて益國小乘息災檀小儀伯迎へて敬愛檀小無間三増并檀小  
無間向む調伏檀小儀伯互互周り廻りて。黒汗を流して約る所小儀伯と  
大地鳴動し埋り形代生るが如く地中より現れ出さる若しけ小音れ息を吐宮中  
覗視を衝き入る身の毛も取らぬ恐ろた宮中小橋曇弥夫人兼てより呪咀の始終  
を見せりて居かひ多小今調伏の形代已と現き出りて女官小命とて罪罪翠を  
まると捲上させ柳眉をよき形代小向ひ如何や摩耶夫人你姉妹乃礼を知らた  
大王強く留めおすも固く辞しなれり。父母乃國へ飯るべしおさかたて色を銜ひ  
媚を巧みしく君電火貪りて女小辱成んせし恨を今を思知はるも罵れられ形  
代も恨りけりる音を發し。母妻より姉君と榮利を争心あはれも君乃宣旨を  
如何せん此系多妻皇子を胎妊せしを執念深し妬し。倭臣乃言成納り親しれ同  
胞成呪咀しお恨りさよ。因果を車乃輪の轉るるが如し。惡報御身小飯せま  
らち早く心を善道小翻し。道士を退けおとり其面兒其音聲摩耶夫人と露

違はれ傳居る數多乃宮女面我覆ひ身を背け。戰慄せむとりの者なりされも  
橋曇弥此下中怕れおあふ忌の言乃葉や姉妹乃縁も是限りやよ道師のれ  
小後我許の苦患成んせと仰りて儀伯無間領堂壇上小湛る白蛇の喜月  
を捧り形代小洒し不測や今も生るが如くんえり形代忽ち以前小土偶となりて  
地上小啼と伴りて二道士頓て是を旧のく埋し秘符成はけり再び出る変を得ざ  
らちあり其後調伏の法悉く畢れん祭乃壇を毀ち供物祭具を洪河小流  
さき橋曇弥乃御前小出調伏成就乃音成言すと夫人重く其功勞を賞し種々  
小宮侍き上金銀緋帛若子成賜ひくふと兩道士大悦ひ深く思を謝し  
宮中成退本馬將軍小辭し別まら月景戒を出る小不思議なる事思  
大地自然と裂儀伯無間苦と叫と等しく地中小投りて地小日乃如人合して兩  
道士終小生方々奈落へ沈没しるる是ひく小佛菩薩の再誕あり  
子成呪咀せ罪成諸天の罰しおふと心ある人小身成慄してを思はる



摩耶奇病并夢中說法

偕も摩耶夫人の月景城より青龍城へ飯りしより久し不見玉ふり婦夫人の面  
會しむの糸の詞を誠と思食悦喜限り將秋風の雲を拂ひ明月の光  
が如く平日より心とぞ思召すも或夜忽り無量乃惡鬼外道空中より降  
り来り千條の繩を以て摩耶夫人の五臓を締縛おど其苦惱堪がも拂をえ  
とも手足働を叫んとも声出がれは如何なる身なりや更も恐ろ  
さ怨もたたり方強く一声あひ叫む心愕然として月覺一場乃夢を御身  
ハ錦帳の裡小則殘燈細々と翠翠とも風ふり傳の女官ハ熟寐して俯  
臥し夫人胸撫下 偕も夢をり多りと猶心を安んずるも胸乃裏に猶止と五  
躰骨肉疼痛邪熱身成焼が如く神心悩亂しれも女官們を呼覚しむひる藥  
湯洗しせり咽成潤かかまむ程小夜ハ漸く明も起出人氣力もかり  
唯錦の褥の上余衣を被り阿闍梨左右の女官ハ夫人乃平素ハ異む休小驚

急に鳥將軍ハ斯と告るは是も大よ孩れ即阿宮中へ馳参り后妃の枕頭より  
寄其容躰を問進し夫人のも苦げかる声息の下より入前後乃夢の更  
を語む鳥將軍練く白く夢ハ心氣ハ疲勞より出所にて姪ひ小足を察し  
小君皇子ハ胎姓せむ起居ハ意を勞しむ其疲勞凝結し自然なる奇だ  
夢成もんむすりも人倫の胎孕ハ天竺より月満りも皇子安々御降誕有  
人更何の疑ふを唯心強し思へ云綸ハ医官ハ寄藥石を調劑すむ  
勸りかへれも夫人も鳥將軍の約を突むと思湯藥を服し神心を鎮む  
骨肉乃疼痛ハ隠々として猶止と見まが胎内の皇子時々動れあへり見へ  
ひも惡夢の後ハ女も動れむも心空ふりて放せり如く言語も  
幾しむも唯しむも絡る心地も朝夕ハ飲食ハ勸むも全夜深固ハ伏  
臥しむも鳥將軍夫妻大い心を痛ら朝廷ハ斯と啓奏しれも淨飯王大りの脊  
慮を發しむ即阿宮登を固く青龍城へ幸臨しむ后妃の帳内小へ







心倦疲おのど睡眠おひさし胎内より大光明輝を異香薫トコト  
 過はる年夢示現しむり菩薩珊瑚の乳房を搔分胎内より出むる人  
 忽然と三十二相を具足せ玉の如く嬰兒となつて現れむい微妙の御声  
 成護くく曰いふや母夫人はむ御身の苦惱の余り予が御腹お孕まされ天  
 破旬の障碍と疑ひし一更御理なき是逐ひの中の途なり我由天上の樂境  
 を全き人間界生成化せし一切衆生の頑愚を憐れ生老病死の大苦惱を救ひ  
 正覚をくそん為の大願なり何と悪魔外道の所為なるは二因の嗔恚俱  
 却の善根を焼捨り一更勿れ人界三箇の福あり生類萬億の中人倫と  
 生る更是一箇の福なり人倫の中於ても萬の道理を知身となる是三箇の福  
 なり萬の道理を知中於ても能其深理を知至る身となる是三箇の福なり  
 是を人倫の三生と謂り此他世界小十定の掟あり統く安せし人  
 其身尊而勿捨賤  
 其身智而勿捨愚

其身修道勿殺惡人  
 其身盛而勿捨義  
 其身緘而勿捨偽  
 其身明而勿捨暗  
 其身富而勿捨貧  
 其身脩而勿捨不腸  
 其身田而勿捨闕  
 知因果縁勿恨他

是十掟古れ世りの掟ふく國王の十因とも謂り此理を不知と肆かる人非人と  
 乃て天人も捨る所なり柳御身と姉君憍曇弥と六七百生が間の仇敵や或親と  
 かり子となり或姉となり妹となり或主臣となり或敵となり恨ん成結とて言絡  
 の中人所ありと其一端をいひ先年夢想小鏡一等兼國の法婆王の後の后妃  
 夷鳩陀夫人即ち今の憍曇彌夫人なり生成變り今姉妹と生俱小此都城小苗  
 られ淨飯王の愛幸成受身となれも御身過去の戒行いれお困り王の電  
 愛深く姉妃八因位の惡報小因り王の電愛薄し是故お平素小嫉妬の惡念  
 絶じ白子懐妊とせし一より嗔恚の劫火愈熾なり其身八月景殿裡小







佛果を願ひ一佛浄土の基乃上三明六通を具足し無為の快樂を極む心  
夢を思ひ玉ひを先刻より統一更浄飯大王より維多の洩し更勿きり  
小の人の告む嬌墨彌も月景城小奉仕る男女悉く刑れぬを。然ありて  
身ゆ予の其罪七百生を徑るも滅する期なきを怒り此滅を志す  
とかり子となる更梵天より系然垂滄海の底に沈み針の孔を通より  
た契かれ御為悪くはまゝいひかといと親小統法玉ひ亦小中なる  
間或搔用胎内小入せむひ多其阿摩耶夫人と年来の病苦旭亦相の消る  
心清き身躰初く健ふありを覚む借も難有御更余波惜れ御更  
うかき自己胎内を見むを光明赫々々々胎内白王の如く透徹り先小出現  
太子千條の絲中く擲著られぬ乳房を合く在せり夫人是を見むは落涙  
乃如くあひさすや尊れ佛菩薩の汚穢不浄の我胎内小入せむは  
憂苦を見せむも恐まきと我と御身を抱え声苦と泣と思ひハ愕然と

一々夢覚む夫人思を悔の上起かたり女阿忙然々々居むは多の執  
夢乃中の更成思はげし始より終り太子統法玉ひを二句も志す  
かく暗記し猶眼前小入る如くされ借も妻身乃起居苦たす先年善  
菩薩の胎内小宿らせむと入ん天魔破旬乃障得やと疑り示現を蒙り  
一ふこそ唯思ゆけと恐れ姉君乃嫉かり今も思ひ月景城より  
幾程かく世小恐れ見たり胎内乃皇子も身動かんと身乃常ならず  
苦くのかり増りハ彼二人の道士が呪唱する験ふこそと思ふ身毛  
心寒く其我身有る小姉君小は悪れ御意も出来り多身姉君の科  
あつと自己がかせ眼なり夢の中小統玉ひ十定り旋の中も因果の理を知  
他を恨む更なれ御示を難有れ將嬉れ姉君の心を和け却て大道心  
善女と成り期を待て世小産出んと宣む未達小平小皇子を産も人更疑  
かろくは夢想を蒙り上亦何を憂ふと歎喜踊躍し更更限なくこれ



今まぐの患病餘波王愈くと健ふなりむの朝夕の飲食も勸む心ゆるたど  
 かりせむいぬぬも喜薩の絨を心小守り夢裡の吏も成敢て口外をむはされを  
 傳了女官より烏將軍夫婦の喜薩の神方乃を其所に養ふもさるも唯是医  
 療の功驗なりと思悦こし浅くも各日來因や心を安んじ王宮に此音啓奏な  
 り浄飯王も女々々睿慮を安んじむの頃小音龍城へ臨幸あつて夫人小對顔  
 む以患病平愈祝しむの猶も保粮を加をたり勅定ありて還御をむはり烏將  
 軍夫妻右妃の患病息り多し上ハ必定近れ小皇子降誕しむやち只此上を悩む  
 平産けりむ久妻を天地小祈り今やくと日夜小待たれとも敢て御産の氣ハを已  
 二年十月の日を重ねれむ若く御懐妊ゆくハ方々血病なる所為小々疑あやぶ  
 人々心成どりもも



釋迦御一代圖會卷之二畢

昭和四年十二月十二日  
 和田大作 贈



